

七 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

ある人、時刻を知らんためにとて、自鳴鐘(注)を求めんとするを、その妻、これをとどめていひけるは、明けくれにかくる世話のみにあらず。くるひたる折からには、その隙ひまをつひやし、自鳴鐘のために、かへりて

B こと多からん。やめ給へといへば、さあらば庭鳥Cを飼ふべし(それならば)

といふに、その妻、又とどめていひけるは、時刻は人のうへにあり。潮の満干もこれとおなじかるべし。自鳴鐘、鶏を便りとするは、勤めに怠るものゝいたすことなりと、夫を諫め、つひに鶏Eをも飼はずなりにき。

〔雲萍雜志〕による。

(注) 自鳴鐘＝室町時代に伝えられた、歯車仕掛けで自動的に鐘が鳴って時刻を知らせる時計。

(1) 文章中の **A** つひやし を現代仮名づかいに改め、全てひらがなで書きなさい。

(2) 文章中の **B** に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 時を選ぶ
- イ 時を置く
- ウ 時を失ふ
- エ 時を得る

(3) 文章中の **C** 庭鳥を飼ふべし について、庭鳥を飼おうとする目的を、文章中から抜き出して、八字で書きなさい。

(4) 文章中の **D** いひける について、ここで妻が語った言葉に「。という記号を付ける場合、「。 」の中に入る言葉を抜き出して、はじめと終わりの三字をそれぞれ書きなさい。

(5) 文章中の **E** 鶏をも飼はずなりにき について、なぜ夫はこのような結論にいたったのか。その理由を説明した次の文の **I**、**II** に入る言葉を書きなさい。ただし、**I** は文章中から四字で抜き出して書き、**II** は文章中の言葉を用いて十一文字以内で書くこと。

時刻は **I** と同様、人の力の及ばないものなので、**II** 姿勢はよくないと諭されたから。